

1-5. 都市施設等

- ・ 高齢社会への対応、既成集落地の利便性向上及び交流人口の確保などのため、公共交通機関の活用を推進するとともに、国道や高規格道路及び幹線道路など広域道路網の有効活用を図るため、市街地内の幹線道路及び生活道路の整備、充実が重要です。
- ・ また、市街地交通の安全確保や利便性向上のため、都市計画道路の速やかな整備推進を図るとともに、中心市街地活性化のため、駅前広場の整備と併せて駅の東西を連絡する通路の整備推進が重要です。
- ・ 数多くある公園緑地等の安全性確保等のため、市民・企業・行政の協働による持続可能な維持管理体制の検討が必要です。
- ・ 上下水道とも、整備計画に基づく速やかな整備の促進が必要です。
- ・ 分散する公共公益施設の機能集約等による効率化を図りつつ、地域コミュニティ活動の拠点^{*}及び災害時の避難・活動拠点等として活用するため、適正な施設の維持管理が必要です。

キーワード

- 施設の整備・充実
- 安全安心なまちづくり
- 都市機能の維持
- 利便性の向上
- 既存ストックの有効活用
- コンパクトなまちづくり
- 市民・企業・行政の協働

2. 住民意向からの課題

2-1. 住民アンケート調査の概要

市民の皆様が普段感じている五所川原市の現状や、今後のまちづくりについての意向を把握するため、平成23年9月から10月にかけて市民1,000人を対象としたアンケート調査を実施しました。

アンケート調査の概要を以下に示します。

- 抽出方法：平成23年8月末現在の20歳以上を対象として、各地域の人口割合に応じて無差別抽出
- 発送日：平成23年9月26日
- 回収期限：平成23年10月7日
- 発送数：1,000通
- 回収数：311通（回収率31.1%）

表 2-1 アンケート調査配付・回収状況

地域別	対象者		配布数	回収数				
	人数	割合		男	女	無回答	計	回収率
五所川原地域	39,186	78%	781	102	132	2	236	30.2%
金木地域	8,802	18%	175	23	35	1	59	33.7%
市浦地域	2,191	4%	44	6	10	0	16	36.4%
合計	50,179	100%	1,000	131	177	3	311	31.1%

調査項目

1. 回答者の属性について
2. 五所川原市について現在思っていることや、将来のイメージについて
3. 五所川原市の住みやすさについて
4. 五所川原市の今後のまちづくりの方向性について
5. 五所川原市の残したい風景や文化について
6. 五所川原市のまちづくりへの参加について
7. 自由意見
8. 秩序あるまちづくりのルール適用について（金木地域・市浦地域の住民）

2-2. 調査結果の概要

(1) 回答者の属性

① 問1 性別

男女比は、「男性」が42%、「女性」が57%となっています。

② 問2 年齢

年齢は、「70歳以上」が最も多く29%、次いで「60歳代」、「50歳代」がそれぞれ19%となっており、60歳以上で半数となっています。

③ 問3 職業

職業は、「無職（年金など）」が最も多く34%、次いで「会社員」が18%、「専業主婦（主夫）」が12%となっています。

④ 問4 通勤・通学先

通勤・通学先は、「五所川原地域」が最も多く34%、次いで「金木地域」が8%、「つがる市」、「青森市」がともに4%となっており、「市浦地域」、「弘前市」はともに2%となっています。

⑤ 問5 住所

住所、「五所川原地域」が76%、次いで「金木地域」が19%、「市浦地域」が5%となっています。

⑥ 問6 世帯人数と家族構成

世帯人数は、「二人」が27%、次いで「三人」が25%、「四人」が18%となっており、家族構成は、「二世帯（自分と子）」が32%、「夫婦」が24%、「二世帯（親と自分）」が13%となっています。

(2) 五所川原市について現在思っていることや、将来のイメージ

① 問7 五所川原市の現状についての満足度

五所川原市の現状に対する満足度は、「緑・水等の自然環境」について33%の方が概ね満足しており、次いで「買い物の便利さ」30%、「上下水道の整備状況」24%の方が、概ね満足していると答えていますが、「買い物の便利さ」、「上下水道の整備状況」は、不満に感じている方がともに29%となっています。

② 問8 五所川原市は将来どのような市になったらいいと思うか

五所川原市の将来の望む姿として最も多かったのが「産業が盛んで活力のあるまち」で、次いで「高齢者や障がい者に優しいまち」、「安心して子育てができるまち」となっています。

(3) 五所川原市の住みやすさ

① 問 9 五所川原市での居住年数

五所川原市での居住年数は、「40年以上」が最も多く50%、次いで「20～40年」が34%、「10～20年」が7%となっており、20年以上居住している方が84%となっています。

② 問 10 五所川原市以外での居住経験の有無

五所川原市以外での居住経験の「ある」方は59%となっており、「ない」方は36%となっています。

③ 問 11 五所川原市以外での居住経験（期間・場所）

五所川原市外での居住年数は、「20～40年」が最も多く43%、次いで「40年以上」が35%、「10～20年」が11%となっており、20年以上居住している方が78%となっています。

また、居住地は、県内では「青森市」が最も多く、次いで「弘前市」、「つがる市」となっており、県外では「関東地方」が最も多くなっています。

④ 問 12 今後の居留意向

居留意向としては、「今住んでいるところにずっと住み続けたい」が60%、「今住んでいるところに当分の間住みたい」が22%となっており、併せて82%となっています。

また、「できれば市外に引越したい」が9%、「できれば市内に引越したい」が7%となっています。

⑤ 問 13 住み続けたい理由

住み続けたい理由は、「長年住み慣れていて愛着がある」が最も多く、次いで「現在の家屋に満足している」、「買い物の便が良い」となっています。

⑥ 問 14 引越したい理由

引越したい理由は、「買い物が不便」が最も多く、次いで「住んでいるまちに魅力を感じない」、「交通が不便」となっています。

(4) 五所川原市の今後のまちづくりの方向性

① 問 15 住みよいまちづくりのために今後望むこと

住みよいまちづくりのために今後望むことは、「道路の整備」が最も多く、次いで「商業環境の整備」、「公園や広場、子供の遊び場の整備」となっています。

② 問 16 市街地の今後のあり方

市街地の今後のあり方については、「A. 市街地の活性化を図るためには、郊外などに新しい市街地をつくるのが良い。」、「B. 市街地の活性化には、現在存在する市街地を活用することが良い。」に対して、Bに近い、どちらかといえばBに近いという回答が併せて66%となっており、Aを上回っています。

③ 問 17 公共公益施設の配置

公共公益施設の配置については、「A. 自動車交通に対する利便性や集客力の確保を図るため分散させた方が良い。」「B. 効率性を高めるため市街地に集積した方が良い。」に対して、Bに近い、どちらかといえばBに近いという回答が併せて52%となっており、Aを上回っています。

④ 問 18 生活したいと思う場所

生活したいと思う場所は、「市街地の周辺」が最も多く34%、次いで「公共施設等が立地する市街地」が21%、「市街地から離れた幹線道路沿いなどの交通利便性の高いところ」、「市街地や幹線道路から離れた自然環境が豊かなところ」がともに16%となっています。

⑤ 問 19 今後の商店街の出店場所やあり方

今後の商店街の出店場所やあり方は、「既存市街地内の商店街の活性化（大規模店舗の出店含む）を図る」が最も多く49%、次いで「現状のままで良い」、「市街地周辺の幹線道路沿いに新たに大規模店舗の出店を誘致する」がともに17%となっています。

⑥ 問 20 就労のための企業誘致

就労のための企業誘致については、「積極的に企業を誘致して、市内に働き場所を増やす」が最も多く81%、次いで「働き場所は近隣都市に期待し、通勤しやすいように交通の改善を図る」が8%、「現状のままで良い」が2%となっています。

⑦ 問 21 今後の農地の利用

今後の農地の利用については、「用水路、農道などを積極的に整備し、農地を保全する」が最も多く31%、次いで「大規模及び整備済み農地は保全し、幹線道路沿道の農地は宅地や企業用地として開発する」が25%、「現状のままで良い」が23%となっています。

⑧ 問 22 今後の道路整備の取り組み

今後の道路整備の取り組みについては、「歩行者が安全に歩けるように、車道と分離した歩道の確保が必要である」が最も多く、次いで「消防車や救急車等の緊急車両が通れない狭い道路の整備が必要である」、「高齢者も安心して歩けるように、バリアフリー化の促進を行う必要がある」となっています。

⑨ 問 23 公園や緑地、緑化への取り組み

公園や緑地、緑化への取り組みについては、「既存公園の利用度を高めるため、施設の充実や改善が必要だと思う」が最も多く、次いで「公園の整備・管理を行うにあたり、地域住民の協力・参加が望ましい」、「既存の公園や緑地へ向かう歩道を散策路として整備する」となっています。

(5) 五所川原市の残したい風景や文化

① 問 24 五所川原市の誇れる風景や建物、文化財、祭り等

五所川原市の誇れる風景や建物、文化財、祭り等については、「立佞武多祭り・館」など立佞武多に関する意見が最も多く、次いで「芦野公園」、「斜陽館」、「十三湖・祭り・遺跡」となっています。

(6) 五所川原市のまちづくりへの参加

① 問 25 今後のまちづくりへの参加意向

今後のまちづくりへの参加意向は、「参加したくない」が最も多く 24%、次いで「ある程度計画が固まった段階で、関心のある項目について参加したい」が 22%、「マスタープランが策定された後、取り組める内容について参加したい」が 17%、「協力を求められれば、マスタープラン作りに参加したい」が 14%となっています。

(7) 自由意見

① 問 26 自由意見

五所川原地域で 120 名、金木地域で 25 名、市浦地域で 7 名の併せて 152 名の方から沢山の意見が寄せられました。

まちづくり全体に対する意見としては、緑豊かなきれいなまち、利便性の高いまち、観光客を増やせるまちなど、魅力あるまちづくりを望む声が多く、施設の整備等に対しては、駅前・駅周辺の活性化や東西連絡通路の設置など、駅周辺の整備を望む意見が最も多く、歩道の整備を望む意見や除雪等雪対策に関する意見、レジャー施設の整備を望む意見が多くなっています。

また、商店街の活気がない、商店を増やしてほしいなど既存商店街の活性化や、働く場所の確保を望む意見も比較的多くなっています。

今後のまちづくりや市の施策運営に反映させたいと思います。

(8) 秩序あるまちづくりのルール適用（金木地域・市浦地域）

① 問 27 「秩序あるまちづくりのルール」の適用

現在都市計画区域の指定がない金木地域と市浦地域に限定して、「秩序あるまちづくりのルール」の適用についての考え方を調査しました。

その結果は、「良好な住環境をつくるためには、「秩序あるまちづくりのルール」の適用を受けても良い」が最も多く 37%、次いで「地域住民が自分たちでルールをつくり、地域の環境を守ることが良い」が 23%、「現在のままで良い」が 19%となっています。

2-3. 住民意向からみたまちづくりの課題

(1) 現状・暮らしやすさなどの満足度

① 現状に対する満足度

五所川原市の現状に対する満足度は、「緑・水等の自然環境」について33%の方が概ね満足しており、次いで「買い物の便利さ」30%、「上下水道の整備状況」24%の方が、概ね満足していると答えていますが、「買い物の便利さ」、「上下水道の整備状況」は、不満を感じている方が29%となっています。

また、「医療施設や救急医療体制」については、50%の方が不満を感じており、次いで「観光・レジャー施設」48%、「公園や広場、子供の遊び場」、「スポーツレクリエーション施設」、「街並み・景観の状況」42%と不満を感じる方の割合が高くなっています。

- 緑・水等の自然環境、買い物の便利さ、上下水道の整備状況に概ね満足している方が比較的多くいます。
- 一方で、医療施設や救急医療体制、観光・レジャー施設、公園・広場、スポーツ・レクリエーション施設、街並み・景観に不満を感じる方が多くいます。

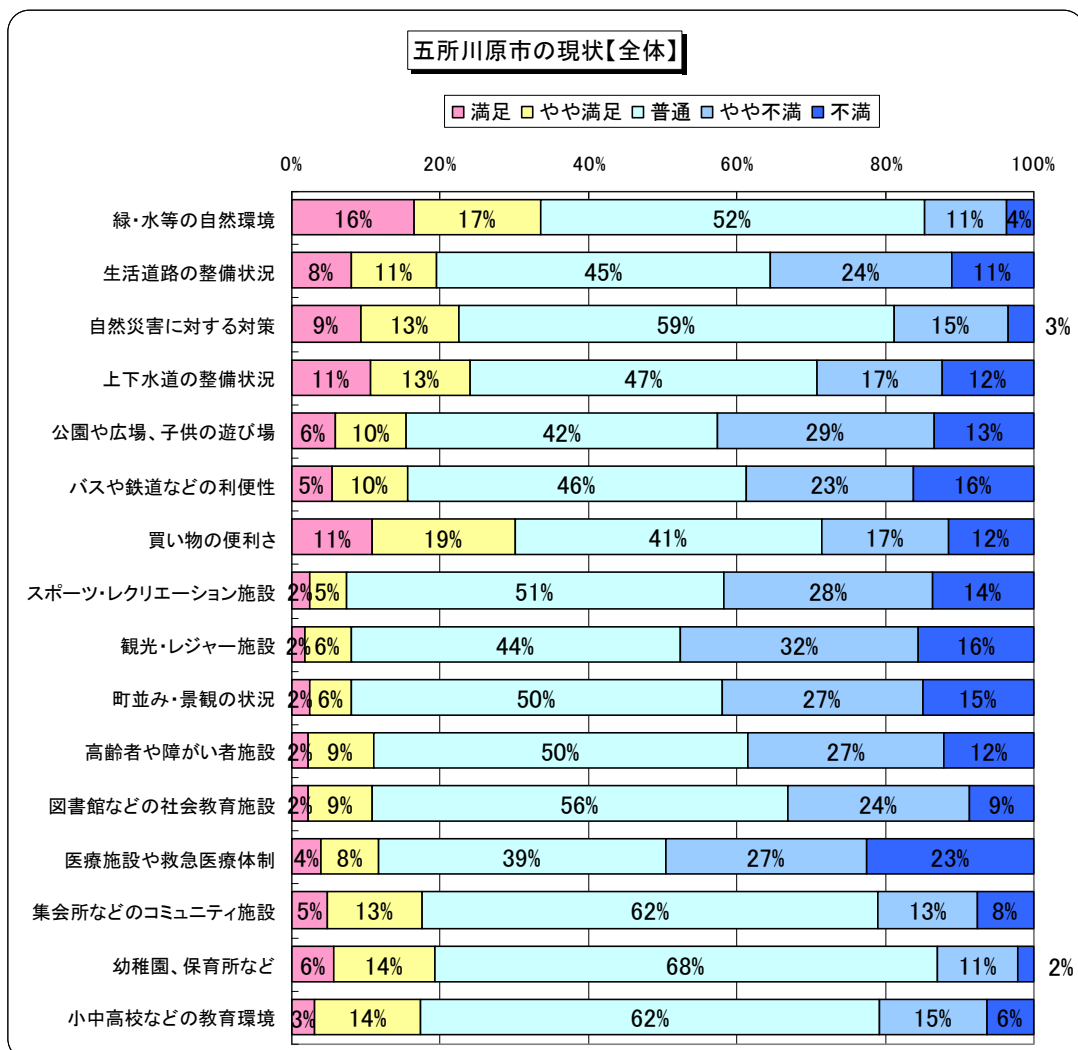


図 2-1 五所川原市の現状に対する満足度

② 暮らしやすさの満足度

総合的に見た五所川原市の暮らしやすさについて、全体としては概ね満足している方が20%となっていますが、35%の方が不満を感じています。

地域別では、市浦地域で51%、年代別では50歳代の54%の方が不満を感じており、60歳代の30%、30歳代の27%が概ね満足と答えており、比較的高い割合を占めています。

- 普通を除くと、全ての分類で不満を感じている方が概ね満足している方を超えています。
- 市浦地域、50歳代で不満を感じている方が半数を超えています。

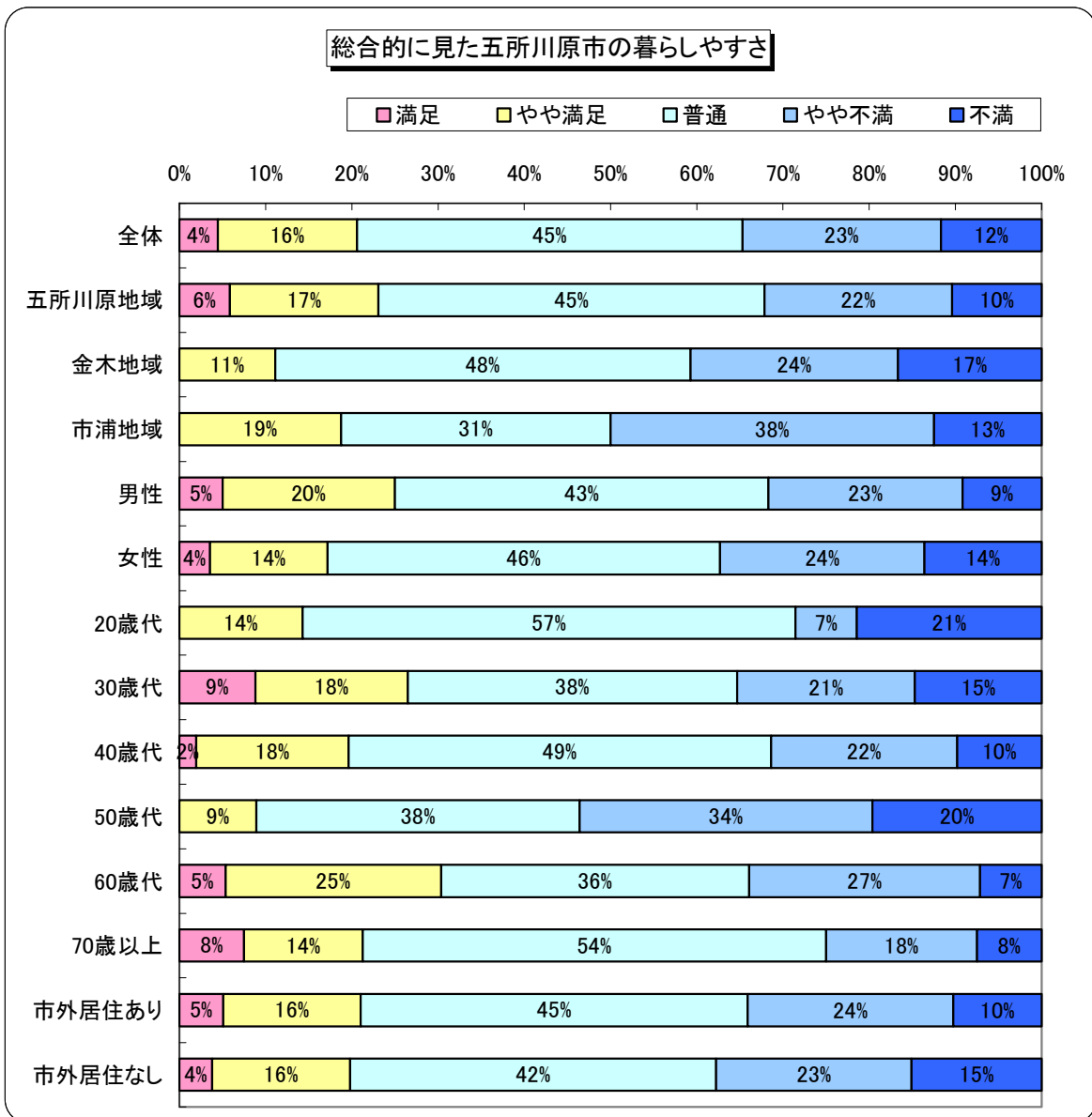


図 2-2 総合的に見た五所川原市の暮らしやすさ

③ 定住意向

今後の居住地について、「ずっと住む」あるいは「当分住む」と答えた方を合わせると82%の方が定住意向を示しています。

また、市外への引越し望む、あるいは予定がある方が11%います。

- 多くの方が五所川原市に住み続けたいと考えています。
- 一方、市外への引越しを望んでいる方が約1割います。

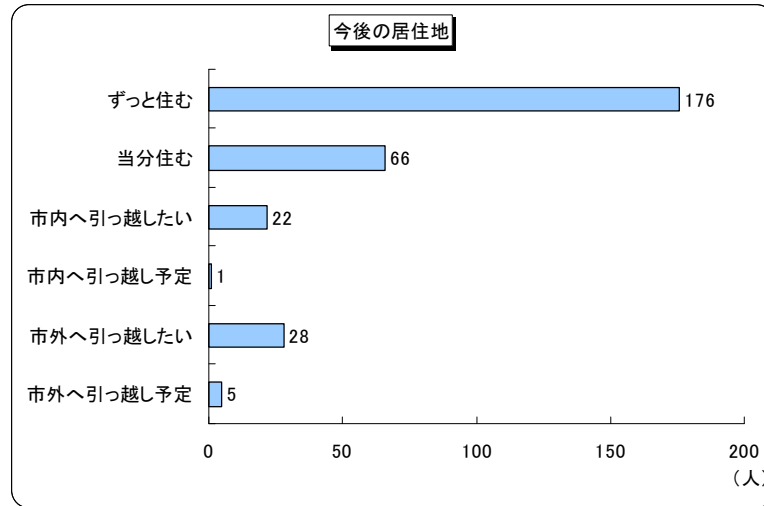


図 2-3 今後の居住地について

引越しを望む、あるいは予定がある方の引越したい理由は、「買い物が不便」が38%と最も多く、次いで、「交通が不便」と「まちに魅力を感じない」が30%、「公共施設が不十分」が29%となっています。

- 引越したい理由は、買い物が不便、交通が不便、まちに魅力を感じない、公共施設が不十分であることがあげられます。

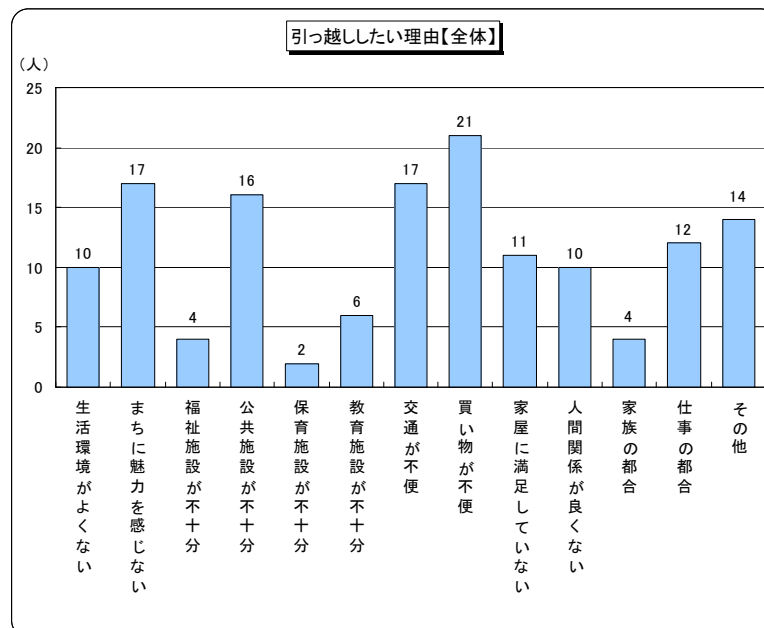


図 2-4 引越したい理由

(2) 現状・暮らしやすさなどからの課題

- ・ 現状に対する満足度においては、不満を感じる方が多いが、定住意向が高いことから、魅力あるまちづくりを推進し定住促進を図ることが重要です。
- ・ 医療施設や医療体制の充実を図り、安全・安心なまちづくりが必要です。
- ・ 観光・レジャー施設、公園・広場、スポーツレクリエーション施設などの拠点を明確化し、各施設の連携を図ることで市民の余暇活動に資するとともに、交流人口の確保が必要です。
- ・ 買い物や交通の利便性の向上を図るなど、暮らしやすいまちづくりが必要です。

キーワード

- 魅力あるまちづくり
- 定住促進
- 安全安心なまちづくり
- 拠点機能の充実
- 市民生活の充実
- 交流人口の確保
- 利便性の向上

(3) 五所川原市の今後のまちづくり

① 住みよいまちづくりのために今後望むこと

住みよいまちづくりのために今後望むことは、「道路の整備」が36%と最も多く、次いで「商業環境の整備」が36%、「公園や広場などの整備」が32%、「防災対策の強化」が30%、「公共交通の利便性の向上」が29%となっています。

- 「道路の整備」については、歩道の確保や狭い道路の整備、バリアフリー化の促進が望まれています。
- 「商業環境の整備」については、既存市街地内の商店街の活性化を図ることが望まれています。
- 「公園や広場などの整備」については、既存公園等の改善、地域住民の協力が望まれています。
- 安全安心で利便性の高いまちづくりが望まれています。

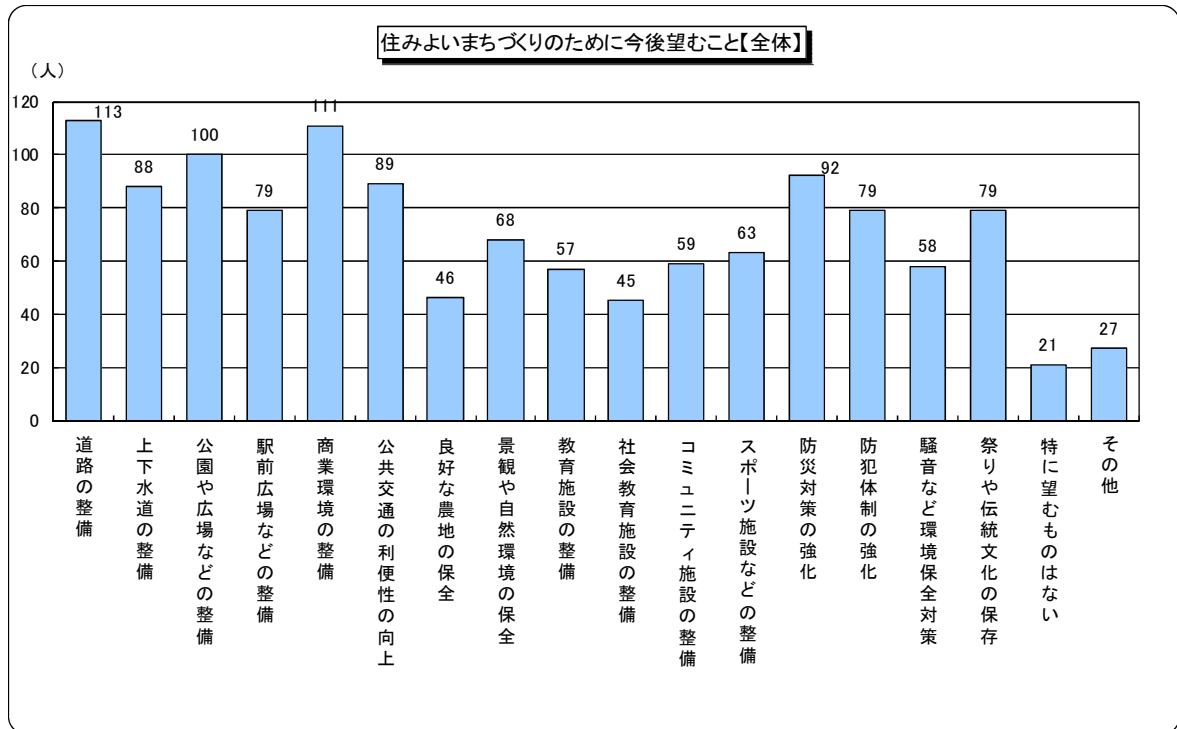


図 2-5 住みよいまちづくりのために今後望むこと

(4) 今後のまちづくりの課題

- ・ 生活道路の整備や防災対策の強化により、安全安心なまちづくりを図ることが重要です。
- ・ 既存の商店街の活性化を図り、魅力と賑わいのあるまちづくりが必要です。
- ・ 既存の公園・緑地等について整備・改善するとともに、地域住民や企業と行政が協力し、適正な維持管理のための体制づくりが必要です。
- ・ 交通弱者の利便性向上を図るとともに、低炭素社会への貢献を目指し、公共交通機関の充実が必要です。

キーワード

- 安全安心なまちづくり
- 魅力あるまちづくり
- 既存市街地の活性化
- 既存ストックの有効活用
- 市民・企業・行政の協働
- 利便性の向上
- 環境破壊への対応

※ まちづくりの課題を整理するための参考意見として、次の世代を担う若者の意見を把握するため、五所川原高等学校、五所川原工業高等学校、五所川原農林高等学校の3校に対し、平成23年11月に「まちづくりに関するアンケート調査」を実施しました。

調査の結果は、庁内検討会議において検討され、住民アンケート調査から整理された課題と大きな相違点はなく、本条において整理された課題はこのアンケート調査結果も反映されたものとなっています。